



MGU Chapel Letter

—第 29 号 2023 年 9 月 29 日— 発行：大学宗教センター



* 2023 年度聖句 *

「あなたがたの内に働いて、御心のままに望ませ、
行わせておられるのは神であるからです。」

フィリピの信徒への手紙 2 章 13 節



10 月の大学礼拝スケジュール

【12 時 10 分～12 時 30 分 礼拝堂にて】

10 月の礼拝日程（説教者の氏名 ※敬称略）

- ・ 10 月 2 日（月） 中家 契介（日本キリスト教会 仙台黒松教会牧師）
- ・ 10 月 4 日（水） 栗原 健（宗教センター長）
- ・ 10 月 6 日（金） 佐々木 哲夫（学院長・宗教総主事）
- ・ 10 月 11 日（水） 松本 周（一般教育部准教授）
- ・ 10 月 18 日（水） 近藤 誠（日本基督教団 仙台北教会牧師）
- ・ 10 月 20 日（金） 長谷部 弘（学長）
- ・ 10 月 23 日（月） 風間 義信（日本キリスト改革派仙台教会牧師）
- ・ 10 月 27 日（金） 松本 周（一般教育部准教授）

10 月 9 日（月）は祝日、13 日（金）は大学祭準備、16 日（月）は大学祭片づけ、25 日（水）は土曜振替のため礼拝はありません。

後期の礼拝は 1 月 19 日（金）まで行われています。ぜひご出席下さい。



体調に注意しましょう

コロナに加えてインフルエンザ感染も拡大しています。長かった猛暑のため体力を消耗し、免疫力が落ちている可能性もあります。健康管理に気をつけましょう。

✦ 人はパンだけでなく ✦



聖書の言葉の中には、慣用句として日本語に定着しているものもいくつかあります。その1つが、「人はパンだけで生きるものではない」です。一般に、「人間は物質的なものだけで生きているのではなく、精神的なものによっても生きている」という意味で使われることが多いですね。足尾鉍毒問題の闘士・田中正造（1841年～1913年）もこの言葉を気に入っていたようで、日記の中でしばしば引用しています。

面白いことに、聖書に記されている元々の言葉は、いささか意味合いが異なります。オリジナルは、イエスが述べた「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」（マタイによる福音書 4 章 4 節）という一言ですが、意味としては、「食べ物は、確かに人間が生きて行くために不可欠である。だが、それと同じく神の言葉（聖書の言葉）も、人間が人間として生きて行くために必要なのだ」となります。

なぜ、食べ物と同じぐらい、聖書の言葉が人間にとって重要なのでしょうか。

人が真っ直ぐに生きて行くためには、自分が愛され、価値あるものとされていることを知り、「自分はひとりではない」と感じられることが大切です。そうでないと、自分が存在していることに安心感が得られず、生き辛くなってしまいます。

聖書は、神が愛をもって人間を価値ある存在として創造したことを伝えます。人間は「的外れ（罪）」に陥り、正しく生きることができなくなってしまうますが、それでも神は人間を見捨てません。人間に裏切られつつも、彼らと共に歩もうと努め続けます。その捨て身の愛は、ついにイエス・キリストの十字架と復活にまで至りました。

神がここまで人間を愛し抜いた以上、人間には必ず希望がある。それが聖書の結論です。スイスの著名な神学者カール・バルト（1886年～1968年）によれば、これは「私はひとりぼっちではない」ということを示します。まさに、聖書の言葉は人の心の土台となるもの、生きる勇気を与えるものですね。

毎週の大学礼拝は、こうした神の語りかけに触れるひとときです。後期もぜひ礼拝に出席し、聖書に学びましょう。食べ物と同様、その時は実感していなくても、気づかないうちに心に栄養がついて行きますよ。

（栗）

✦ 大学祭で、聖歌隊による演奏会!! ✦

14 日（土）13 時～14 時 30 分



10 月 14 日（土）・15 日には、大学祭が開かれます。この第 1 日目、14 日の 13 時から 14 時 30 分まで、礼拝堂で大学聖歌隊による第 5 回定期演奏会が開催される予定です。メンバーたちの希望により、今回は「未来へ届ける祈りの歌声」をテーマにした選曲になっております。

曲目は、「結婚行進曲」の作曲者でもあるフェリクス・メンデルスゾーン（1809 年～1847 年）の「ラウダーテ・プエリ」、讃美歌より「主よ、この時代に」「美しい大地は」「真実に清く生きたい」、ブロードウェイミュージカル RENT から「Seasons of love」などが歌われるほか、日本の合唱曲なども取り上げられる予定です。

今回特に注目されるのが、フランスの作曲家・ピアニストのセシル・シャミナード（1857 年～1944 年）による「小ミサ」です。シャミナードは、音楽活動一本で経済的自立を達成した最初の女性作曲家とも言われており、イギリスのヴィクトリア女王やアメリカのルーズヴェルト大統領の前でも演奏、各地で好評を博しました。死後は長らく忘れられていましたが、近年再評価の機運が高まっている異色の人物です。今回歌われるこの曲は、本邦初演奏かも知れないとのこと。これは見逃せないですね。

新型コロナウイルスは 5 類に移行したものの、ウクライナでの紛争は終息の兆しが見られないなど、心を乱されることが多いです。だからこそ、「平和への祈りと、未来への希望が込められた曲を歌います。私たちの祈りが希望ある未来へ届くよう、心から歌いたと思います」と隊員の方々は抱負を語っています。ぜひ素晴らしい歌声を聴きにきて下さい。



【連絡先】 宮城学院キリスト教センター

TEL : 022-279-9558

Email : christ-c@mgu.ac.jp